

専門学校赤門自動車整備大学校 令和7年度 授業計画（シラバス）

学 科 名	一級自動車整備士科				
科 目 名	工場経営				
履修年次	4年次	履修学期	4月、10月	授業形態	講義
総 時 限	8時限	単位時間数	14.4時間（0.9単位）		
教科書等 持参品	教科書(総合診断・環境保全・安全管理)				
教科担当	・上田 忠之 ・高橋 翔太				
目 的	自動車整備事業を行う場合に必要となる要件や関係法令、見積書の作成など、工場を経営するに 当たり必要な知識は多岐にわたるため、必要な知識を習得し、将来自動車整備工場を経営できる 人材育成を目的とする。				
概 要	項 目				時 限
	・接客の基本手法と必要な知識 受付～問診				2
	・見積書の作成要領 レバレートと標準作業時間から工賃を算出				2
	・見積書の作成 演習				2
	・請求書の作成 演習 お客様への整備説明内容				2
到達目標	将来自動車会社を開業し、自動車業界発展の中心的人材となれる知識を身に付ける				
使用教材	教科書(総合診断・環境保全・安全管理)				
成績評価の方法	※ 定期試験の得点により 100～85点：5 84～65点：4 64～50点：3 合 格 49～30点：2 29～ 0点：1 不合格				
教科担当の 自動車整備経験	自動車販売・整備に関わる会社にて自動車整備士としての勤務経験がある。				

専門学校赤門自動車整備大学校 令和7年度 授業計画（シラバス）

学 科 名	一級自動車整備士科				
科 目 名	エンジン電子				
履修年次	4年次	履修学期	8月、10月～11月 1月、3月	授業形態	講義
総 時 限	26時限	単位時間数	46.8時間（3.1単位）		
教科書等 持参品	教科書（エンジン電子制御装置）				
教科担当	・上田 忠之 ・高橋 翔太				
目 的	自動車のエンジンは電子制御化が進み、整備を行うためには電子制御システムの理解が必要不可欠となるため、エンジンを中心とした電子制御システムのセンサ、アクチュエータ、ECU制御等の理解を深める。				
概 要	項 目				時 限
	第2章 高度整備技術 I 概要 II 構造・機能・点検				
	2．センサ 3．アクチュエータ				12
	第2章 高度整備技術 II 構造・機能・点検				
	4．通信信号 5．ECUの制御				12
	第2章 高度整備技術 総合				2
到達目標	高度なエンジン電子システムの理解				
使用教材	教科書（エンジン電子制御装置）				
成績評価の方法	※ 定期試験の得点により 100～85点：5 84～65点：4 64～50点：3 合 格 49～30点：2 29～ 0点：1 不合格				
教科担当の 自動車整備経験	自動車販売・整備に関わる会社にて自動車整備士としての勤務経験がある。				

専門学校赤門自動車整備大学校 令和7年度 授業計画（シラバス）

学 科 名	一級自動車整備士科				
科 目 名	エンジン整備				
履修年次	4年次	履修学期	7月、1月	授業形態	講義
総 時 限	9時限	単位時間数	16.2時間（1単位）		
教科書等 持参品	教科書（エンジン電子制御装置）				
教科担当	・上田 忠之 ・高橋 翔太				
目 的	エンジンに故障が発生した場合、正しい手順で的確に診断していくことができれば、多くの時間と労力を消費する。故障事例から正しい手順と診断方法を学習し、迅速で正確な診断・修理要領を習得する。				
概 要	項 目				時 限
	第3章 高度故障診断技術				
	1． エンジン警告灯点灯時の点灯・整備方法				3
	2． CAN通信システムの点検・整備				4
	第3章 高度故障診断技術 総合				2
到達目標	高度なエンジン電子制御システムに故障が発生した場合に、的確な診断・修理ができる人材となる				
使用教材	教科書（エンジン電子制御装置）				
成績評価の方法	※ 定期試験の得点により 100～85点：5 84～65点：4 64～50点：3 合 格 49～30点：2 29～ 0点：1 不合格				
教科担当の 自動車整備経験	自動車販売・整備に関わる会社にて自動車整備士としての勤務経験がある。				

専門学校赤門自動車整備大学校 令和7年度 授業計画（シラバス）

学 科 名	一級自動車整備士科				
科 目 名	シャシ電子				
履修年次	4年次	履修学期	8月、10月～11月 1月、3月	授業形態	講義
総 時 限	29時限	単位時間数	52.2時間（3.4単位）		
教科書等 持参品	教科書（シャシ電子制御装置）				
教科担当	・上田 忠之 ・高橋 翔太				
目 的	近年の自動車シャシは電子制御化が進み、従来の知識だけでは高度化された自動車のシャシを修理するには限界がある。そのためシャシに利用されている電子制御システムのセンサ、アクチュエータ、ECU制御等の理解を深め、診断能力の向上を図る。				
概 要	項 目				時 限
	Ⅰ 電子制御式オートマチック・トランスミッション				
	第1章 高度整備技術 1) 電源回路 2) センサ				4
	3) アクチュエータ 4) ECUの制御 5) フェイルセーフ				6
	Ⅱ 電動式パワー・ステアリング				
	第 1 章 高度整備技術 1) 電源回路 2) センサ				4
	3) アクチュエータ 4) EPS・ECU回路				4
	Ⅲ アンチロック・ブレーキ・システム				
	第 1 章 高度整備技術 1) 電源回路 2) センサ				4
	3) アクチュエータ 4) ABS・ECU回路				4
第 1 章 高度整備技術 総合				3	
到達目標	高度なシャシ電子システムの理解				
使用教材	教科書（シャシ電子制御装置）				
成績評価の方法	※ 定期試験の得点により 100～85点：5 84～65点：4 64～50点：3 合 格 49～30点：2 29～ 0点：1 不合格				
教科担当の 自動車整備経験	自動車販売・整備に関わる会社にて自動車整備士としての勤務経験がある。				

専門学校赤門自動車整備大学校 令和7年度 授業計画（シラバス）

学 科 名	一級自動車整備士科				
科 目 名	シャシ整備				
履修年次	4年次	履修学期	7月、1月	授業形態	講義
総 時 限	12時限	単位時間数	21.6時間（1.4単位）		
教科書等 持参品	教科書（シャシ電子制御装置）				
教科担当	・上田 忠之 ・高橋 翔太				
目 的	電子制御装置の導入により複雑化した各種シャシ装置に故障が発生した場合、正しい手順での確に診断していくことができないと、多くの時間と労力を消費する。故障事例から正しい手順と診断方法を学習し、迅速で正確な診断・修理要領を習得する。				
概 要	項 目				時 限
	Ⅰ 電子制御式オートマティック・トランスミッション				
	第2章 高度故障診断技術				2
	2) 異常コード表示時の点検整備方法 ～ 4) 表示されない不具合				
	Ⅱ 電動式パワー・ステアリング 第2章 高度故障診断技術				2
	Ⅲ アンチロック・ブレーキ・システム 第2章 故障故障診断技術				2
	Ⅰ 電子制御式オートマティック・トランスミッション 総合				2
	Ⅱ 電動式パワー・ステアリング 第2章 高度故障診断技術 総合				2
	Ⅲ アンチロック・ブレーキ・システム 第2章 故障故障診断技術 総合				2
到達目標	高度なシャシ電子制御システムに故障が発生した場合に的確な診断・修理ができる人材となる				
使用教材	教科書（シャシ電子制御装置）				
成績評価の方法	※ 定期試験の得点により 100～85点：5 84～65点：4 64～50点：3 合 格 49～30点：2 29～ 0点：1 不合格				
教科担当の 自動車整備経験	自動車販売・整備に関わる会社にて自動車整備士としての勤務経験がある。				

専門学校赤門自動車整備大学校 令和7年度 授業計画（シラバス）

学 科 名	一級自動車整備士科				
科 目 名	電子理論				
履修年次	4年次	履修学期	11月、1月	授業形態	講義
総 時 限	20時限	単位時間数	36時間（2.4単位）		
教科書等 持参品	教科書（エンジン電子制御装置）				
教科担当	・上田 忠之 ・高橋 翔太				
目 的	電気回路・電子回路の基本を習得するとともに電気・電子部品や回路の測定機器の正しい使用方法を学習し、電子制御化が進んだ自動車の診断・修理技術向上を図る。				
概 要	項 目				時 限
	第1章 電気回路				
	Ⅱ 電気回路と電子回路の基本 1．電気回路の構成				2
	2．電子回路の構成 3．直列接続と並列接続の接続方法				4
	Ⅲ 電気回路の故障				
	1．断線と短絡の事象 2．電子回路の測定				2
	Ⅳ電気・電子回路の測定技術				
	1．サーキット・テストの活用 2．オシロスコープの活用				4
	3．外部診断機の活用				2
	Ⅱ 電気回路と電子回路の基本 総合				2
	Ⅲ 電気回路の故障 総合				2
	Ⅳ電気・電子回路の測定技術 総合				2
到達目標	電子制御システムの理解や整備時の基礎知識となる部分について理解を深め、あらゆる回路に対応できる人材となる				
使用教材	教科書（エンジン電子制御装置）				
成績評価の方法	※ 定期試験の得点により 100～85点：5 84～65点：4 64～50点：3 合 格 49～30点：2 29～ 0点：1 不合格				
教科担当の 自動車整備経験	自動車販売・整備に関わる会社にて自動車整備士としての勤務経験がある。				

専門学校赤門自動車整備大学校 令和7年度 授業計画（シラバス）

学 科 名	一級自動車整備士科				
科 目 名	電装整備				
履修年次	4年次	履修学期	11月、1月、3月	授業形態	講義
総 時 限	19時限	単位時間数	34.2時間（2.2単位）		
教科書等 持参品	教科書（シャシ電子制御装置）				
教科担当	・上田 忠之 ・高橋 翔太				
目 的	近年は自動車車内の空調装置も高度化が進み、故障した場合の診断・修理技術も高いものが要求されている。現在多くの自動車に採用されているオート・エアコンの構成・制御を学習し、快適な車内空間を維持できる知識・技術習得を目標とする。				
概 要	項 目				時 限
	Ⅳ オート・エア・コンディショナ				
	第1章 高度整備技術				
	2)センサ 3) アクチュエータ				9
	第2章 高度故障診断技術				
	2．ダイアグノーシス・コードを持つ場合の故障診断				3
	3．ダイアグノーシス・コードを持たない場合の故障診断				3
	第1章 高度整備技術 第2章 高度故障診断技術 総合				4
到達目標	オート・エアコンの部品・構造・回路・制御について理解を深め、的確な診断・修理ができる人材となる				
使用教材	教科書（シャシ電子制御装置）				
成績評価の方法	※ 定期試験の得点により 100～85点：5 84～65点：4 64～50点：3 合 格 49～30点：2 29～ 0点：1 不合格				
教科担当の 自動車整備経験	自動車販売・整備に関わる会社にて自動車整備士としての勤務経験がある。				

専門学校赤門自動車整備大学校 令和7年度 授業計画（シラバス）

学 科 名	一級自動車整備士科				
科 目 名	新技術				
履修年次	4年次	履修学期	6月、12月、2月	授業形態	講義
総 時 限	18時限	単位時間数	32.4時間（2.1単位）		
教科書等 持参品	教科書（自動車新技術）				
教科担当	・上田 忠之 ・高橋 翔太				
目 的	日々進化する自動車の新機構・新装備について理解し、最新技術に対応できる自動車整備士を育成する。				
概 要	項 目				時 限
	第1章 ハイブリッド車				3
	第2章 圧縮天然ガス自動車 総合				2
	第3章 筒内噴射式ガソリン・エンジン 総合				2
	第4章 コモン・レール式高圧燃料噴射システム 総合				2
	第1章 無段変速機（CVT） 総合				3
	第2章 車両安定制御装置 総合				3
	第3章 SRSエア・バッグ及びプリテンショナ・シート・ベルト総合				3
到達目標	従来の知識だけでなく一部の自動車のみに採用されている技術についても知識を深め、あらゆるジャンルの自動車について診断・整備ができる人材となる				
使用教材	教科書（自動車新技術）				
成績評価の方法	※ 定期試験の得点により 100～85点：5 84～65点：4 64～50点：3 合 格 49～30点：2 29～ 0点：1 不合格				
教科担当の 自動車整備経験	自動車販売・整備に関わる会社にて自動車整備士としての勤務経験がある。				

専門学校赤門自動車整備大学校 令和7年度 授業計画（シラバス）

学 科 名	一級自動車整備士科				
科 目 名	力学・数学				
履修年次	4年次	履修学期	4月、12月、2月	授業形態	講義
総 時 限	18時限	単位時間数	32.4時間（2.1単位）		
教科書等 持参品	教科書(エンジン電子制御、シャシ電子制御)				
教科担当	・上田 忠之 ・高橋 翔太				
目 的	走行中の自動車は、あらゆる角度から振動と衝撃が訪れるため、車体に掛かる曲げ作用及びせん断作用などについて理解する必要がある。また、電気回路における電圧・電流・抵抗の計算要領を理解し、電気回路の整備・診断技術の向上を目的とする。				
概 要	項 目				時 限
	V振動・騒音 第1章 高度整備技術				
	1．概要 2．振動と音 3．振動の表し方 4．音の表し方				2
	5．振動と騒音の防止（ダンパ、振動抑制材料、遮音壁、吸音材）				4
	6．計測機器（振動計、騒音計）				2
	7．車両各部の振動・騒音と低減の対応				4
	1) エンジン 2) シャシ				
	7．車両各部の振動・騒音と低減 3) ステアリング 2) ブレーキ				4
	直流・交流電圧計、直流・交流電流計、抵抗計 確度の計算				1
	油温センサ、燃温センサ、計算				1
到達目標	自動車整備における数学的計算が必要な知識を深め、正確な数値を算出することで自動車修理に活用できる人材となる。				
使用教材	教科書(エンジン電子制御、シャシ電子制御)				
成績評価の方法	※ 定期試験の得点により 100～85点：5 84～65点：4 64～50点：3 合 格 49～30点：2 29～ 0点：1 不合格				
教科担当の 自動車整備経験	自動車販売・整備に関わる会社にて自動車整備士としての勤務経験がある。				

専門学校赤門自動車整備大学校 令和7年度 授業計画（シラバス）

学 科 名	一級自動車整備士科				
科 目 名	燃料・潤滑				
履修年次	4年次	履修学期	5月～6月、2月	授業形態	講義
総 時 限	7時限	単位時間数	12.6時間（0.8単位）		
教科書等 持参品	教科書(総合診断・環境保全・安全管理)				
教科担当	・上田 忠之 ・高橋 翔太				
目 的	自動車には様々な油脂類が使用されており、場所に応じて適切な油脂類を使用するだけでなく、油脂類ごとの特性の違いや、火災など災害を防止するための知識を深め、正しく安全に利用できる人材育成を目的とする。				
概 要	項 目				時 限
	・燃料・油脂類の種類と特徴 適正処理の方法				3
	・防火の知識 危険物の取扱い 総合				4
到達目標	油脂類の知識を深めることで自動車整備に応用するだけでなく、油脂類が原因となって発生する災害を未然に防止できる人材となる				
使用教材	教科書(総合診断・環境保全・安全管理)				
成績評価の方法	※ 定期試験の得点により 100～85点：5 84～65点：4 64～50点：3 合 格 49～30点：2 29～ 0点：1 不合格				
教科担当の 自動車整備経験	自動車販売・整備に関わる会社にて自動車整備士としての勤務経験がある。				

専門学校赤門自動車整備大学校 令和7年度 授業計画（シラバス）

学 科 名	一級自動車整備士科				
科 目 名	自動車材料				
履修年次	4年次	履修学期	6月、2月	授業形態	講義
総 時 限	7時限	単位時間数	12.6時間（0.8単位）		
教科書等 持参品	教科書（基礎自動車工学）				
教科担当	・ 上田 忠之 ・ 高橋 翔太				
目 的	自動車は鉄鋼や非鉄金属だけでなく、ゴムやガラス、プラスチック等の非金属など多数の材料で構成されている。自動車材料について学習し、材料のメリットやデメリット、部位ごとの適切な材料などについて理解を深める。				
概 要	項 目				時 限
	自動車の材料 総合				
	1．鉄鋼（鋳鉄、鋼、熱処理）				1
	2．非鉄金属（銅、アルミニウム、亜鉛、鉛）				2
	3．焼結合金				2
	4．非金属（ゴム、ガラス、ファイン・セラミックス）				2
到達目標	自動車の各部位に使用されている様々な材料の理解を深め、材料ごとの特性を考慮した自動車整備ができる人材となる				
使用教材					
成績評価の方法	※ 定期試験の得点により 100～85点：5 84～65点：4 64～50点：3 合 格 49～30点：2 29～ 0点：1 不合格				
教科担当の 自動車整備経験	自動車販売・整備に関わる会社にて自動車整備士としての勤務経験がある。				

専門学校赤門自動車整備大学校 令和7年度 授業計画（シラバス）

学 科 名	一級自動車整備士科				
科 目 名	整備機器				
履修年次	4年次	履修学期	8月、2月	授業形態	講義
総 時 限	4時限	単位時間数	7.2時間（0.4単位）		
教科書等 持参品	教科書(エンジン電子制御装置、総合診断・環境保全・安全管理)				
教科担当	・上田 忠之 ・高橋 翔太				
目 的	自動車整備に必要な整備機器の正しい取扱い方法を習得し、自動車整備の精度向上を目的とする。				
概 要	項 目				時 限
	第3章 災害防止 総合				
	1.各種工具の取扱い				2
	2.機械設備関係の取扱い				2
到達目標	機器の正しい使用方法と機能維持のためのメンテナンス要領を習得し、整備機器を十分に活用した点検・整備ができる人材となる				
使用教材					
成績評価の方法	※ 定期試験の得点により 100～85点：5 84～65点：4 64～50点：3 合 格 49～30点：2 29～ 0点：1 不合格				
教科担当の 自動車整備経験	自動車販売・整備に関わる会社にて自動車整備士としての勤務経験がある。				

専門学校赤門自動車整備大学校 令和7年度 授業計画（シラバス）

学 科 名	一級自動車整備士科				
科 目 名	測定機器				
履修年次	4年次	履修学期	2月～3月	授業形態	講義
総 時 限	6時限	単位時間数	10.8時間（0.7単位）		
教科書等 持参品	教科書(エンジン電子制御装置、シャシ電子制御装置)				
教科担当	・ 上田 忠之 ・ 高橋 翔太				
目 的	高度化する自動車に合わせ、自動車整備に使用する機器も進化を遂げている。高度故障診断で必要とされる測定機器の習得を目標とする。				
概 要	項 目				時 限
	第1章 電気・電子回路の測定技術 総合				
	1.オシロスコープの活用				2
	2.オシロスコープで行う点検				2
	第1章 計測機器 総合				
	1.振動・騒音分析器				2
到達目標	精度が高い測定や分析能力を習得し、高度な診断に対応できる人材となる。				
使用教材					
成績評価の方法	※ 定期試験の得点により 100～85点：5 84～65点：4 64～50点：3 合 格 49～30点：2 29～ 0点：1 不合格				
教科担当の 自動車整備経験	自動車販売・整備に関わる会社にて自動車整備士としての勤務経験がある。				

専門学校赤門自動車整備大学校 令和7年度 授業計画（シラバス）

学 科 名	一級自動車整備士科				
科 目 名	検査機器				
履修年次	4年次	履修学期	7月、2月	授業形態	講義
総 時 限	6時限	単位時間数	10.8時間（0.7単位）		
教科書等 持参品	教科書(エンジン電子制御装置、環境保全・安全管理)				
教科担当	・上田 忠之 ・高橋 翔太				
目 的	高度化する自動車に合わせ、自動車整備に使用する機器も進化を遂げている。高度故障診断で必要とされる測定機器の習得を目標とする。				
概 要	項 目				時 限
	第3章 災害防止				
	1.機械設備関係の取扱い				3
	第1章 電気・電子回路の測定技術				
	1.外部診断器の活用				3
到達目標	検査機器の使用方法や測定だけではなく、通信システム・ネットワークシステム等についても熟知した人材となる。				
使用教材					
成績評価の方法	※ 定期試験の得点により 100～85点：5 84～65点：4 64～50点：3 合 格 49～30点：2 29～ 0点：1 不合格				
教科担当の 自動車整備経験	自動車販売・整備に関わる会社にて自動車整備士としての勤務経験がある。				

専門学校赤門自動車整備大学校 令和7年度 授業計画（シラバス）

学 科 名	一級自動車整備士科				
科 目 名	総合診断				
履修年次	4年次	履修学期	4月、2月～3月	授業形態	講義
総 時 限	11時限	単位時間数	19.8時間（1.3単位）		
教科書等 持参品	教科書(総合診断・環境保全・安全管理)				
教科担当	・上田 忠之 ・高橋 翔太				
目 的	お客様の自動車が故障したときの「受付」「問診」及び「診断」の要領や要点などを学習し、基本的な接客手法と総合診断を行う上で必要不可欠となる知識を習得する。				
概 要	項 目				時 限
	・自動車整備に関する総合診断 応酬話法 診断応用				11
到達目標	故障した車両を診断するときに必要な知識を習得し、故障探求を始める前に的確な方向性を見出すことができる人材となる				
使用教材					
成績評価の方法	※ 定期試験の得点により 100～85点：5 84～65点：4 64～50点：3 合 格 49～30点：2 29～ 0点：1 不合格				
教科担当の 自動車整備経験	自動車販売・整備に関わる会社にて自動車整備士としての勤務経験がある。				

専門学校赤門自動車整備大学校 令和7年度 授業計画（シラバス）

学 科 名	一級自動車整備士科				
科 目 名	故障探求				
履修年次	4年次	履修学期	5月～6月、 12月、3月	授業形態	講義
総 時 限	26時限	単位時間数	46.8時間（3.1単位）		
教科書等 持参品	教科書（シャシ電子制御装置）				
教科担当	・ 上田 忠之 ・ 高橋 翔太				
目 的	自動車の高級化、高品質化に伴い、使用者の車に対する期待も「より静かでより快適に」といった感覚的な要求が高くなっている。自動車の商品性を決定する要因として「静粛でなければ快適でない」という概念が確立しているため、不快な振動・騒音を分析・診断し、取り除くための知識を習得し、お客様が安心して自動車に乗れるための整備技術を習得する。				
概 要	項 目				時 限
	V 振動・騒音				
	高度整備技術 高度故障診断技術 事例別故障探求法				26
到達目標	運転する上で不快な振動・騒音を分析・点検・修理する知識と技術を身に付け、お客様に快適なカーライフを提供できる人材となる				
使用教材					
成績評価の方法	※ 定期試験の得点により 100～85点： 5 84～65点： 4 64～50点： 3 合 格 49～30点： 2 29～ 0点： 1 不合格				
教科担当の 自動車整備経験	自動車販売・整備に関わる会社にて自動車整備士としての勤務経験がある。				

専門学校赤門自動車整備大学校 令和7年度 授業計画（シラバス）

学 科 名	一級自動車整備士科				
科 目 名	図面				
履修年次	4年次	履修学期	2月	授業形態	講義
総 時 限	4時限	単位時間数	7.2時間（0.4単位）		
教科書等 持参品	赤門オリジナルテキスト（図面・製図）				
教科担当	・上田 忠之 ・高橋 翔太				
目 的	様々な記述法による図面を理解し、自動車部品などの配置や寸法、形状などを詳しく理解できる人材を育成し、自動車修理技術の向上に役立てる。				
概 要	項 目				時 限
	・第3角法による三面図の作成				2
	・斜投影、等角投影による図面作成				2
到達目標	自動車部品の角度や寸法、自動車に取り付けられている配線や電装品の繋がりなどを分かりやすく伝えるための図面を書き出す知識と技術を身に付ける				
使用教材					
成績評価の方法	※ 定期試験の得点により 100～85点：5 84～65点：4 64～50点：3 合 格 49～30点：2 29～ 0点：1 不合格				
教科担当の 自動車整備経験	自動車販売・整備に関わる会社にて自動車整備士としての勤務経験がある。				

専門学校赤門自動車整備大学校 令和7年度 授業計画（シラバス）

学 科 名	一級自動車整備士科				
科 目 名	安全管理				
履修年次	4年次	履修学期	12月	授業形態	講義
総 時 限	3時限	単位時間数	5.4時間（0.3単位）		
教科書等 持参品	教科書(総合診断・環境保全・安全管理)				
教科担当	・上田 忠之 ・高橋 翔太				
目 的	万が一、職場で事故や災害が発生すれば、その大きさによっては本人や職場の人たちのみならず、近隣住民に迷惑を掛けたり、損害を与えることもあるため、人道的な面からも社会的責任の面からも、安全管理は極めて重要な事である。安全管理を学習し、安心して仕事に専念できる職場環境をつくり出すことができる人材育成を目的とする。				
概 要	項 目				時 限
	第1章 安全管理の意義				
	(安全管理の意義、安全管理の重要性、安全管理と作業能率)				1
	第2章 災害のあらまし				
	(災害発生の仕組み、不安全状態と不安全行動、災害の起こる要件、災害防止の急所)				1
	第3章 災害防止				
	(安全のルール、整理・整頓、作業場の注意事項、防火の知識、危険物の取り扱い、応急手当についての心得)				
	安全管理の意義 災害のあらまし 災害防止 総合				1
	到達目標	職場での災害を防止するための危機管理能力を身に付け、安全で快適な職場環境を構築できる人材を育成する			
使用教材					
成績評価の方法	※ 定期試験の得点により 100～85点：5 84～65点：4 64～50点：3 合 格 49～30点：2 29～ 0点：1 不合格				
教科担当の 自動車整備経験	自動車販売・整備に関わる会社にて自動車整備士としての勤務経験がある。				

専門学校赤門自動車整備大学校 令和7年度 授業計画（シラバス）

学 科 名	一級自動車整備士科				
科 目 名	環境保全				
履修年次	4年次	履修学期	12月、2月	授業形態	講義
総 時 限	10時限	単位時間数	18時間（1.2単位）		
教科書等 持参品	教科書(総合診断・環境保全・安全管理)				
教科担当	・上田 忠之 ・高橋 翔太				
目 的	温暖化や酸性雨、オゾン層の破壊、生活排水などに起因する水質汚濁、廃棄物の増大など、数多く抱える地球環境について理解を深め、自動車と環境の調和を図ることができる人材を育成する。				
概 要	項 目				時 限
	環境保全 総合				
	第1章 地球規模の環境保全とその必要性 第2章 資源の有効利用				4
	第3章 産業廃棄物処理の影響と対応				3
	第4章 整備事業場などにおける環境保全				3
到達目標	現在の地球環境の問題点について向き合い、将来の地球環境を考慮しながら取り組んでいく人材となる				
使用教材					
成績評価の方法	※ 定期試験の得点により 100～85点：5 84～65点：4 64～50点：3 合 格 49～30点：2 29～ 0点：1 不合格				
教科担当の 自動車整備経験	自動車販売・整備に関わる会社にて自動車整備士としての勤務経験がある。				

専門学校赤門自動車整備大学校 令和7年度 授業計画（シラバス）

学 科 名	一級自動車整備士科				
科 目 名	自動車検査				
履修年次	4年次	履修学期	12月、2月～3月	授業形態	講義
総 時 限	13時限	単位時間数	23.4時間（1.5単位）		
教科書等 持参品	教科書(法令教材)				
教科担当	・ 上田 忠之 ・ 高橋 翔太				
目 的	保安基準適合性確保の点検要領を学習し、道路運送車両法の保安基準に定める保安上又は公害防止その他の環境保全上の技術基準に適合していることを的確に点検できる人材育成を行う。				
概 要	項 目				時 限
	道路運送車両の保安基準 総合				
	・ 自動車の長さ・幅・高さ，最低地上高，安定性，最小回転半径				2
	・ 原動機および動力伝達装置～車枠および車体				2
	・ 巻込防止装置～有害ガス発散防止装置				2
	・ 灯火装置 等				2
	・ 警音器～保安基準の主要基準数値一覧				2
	・ 原動機および動力伝達装置～保安基準の主要基準数値一覧				3
到達目標	自動車の安全性確保、公害防止、環境保全のため道路運送車両法に精通した人材となり、基準に適合しているか否かを的確に判定できる人材となる				
使用教材					
成績評価の方法	※ 定期試験の得点により 100～85点：5 84～65点：4 64～50点：3 合 格 49～30点：2 29～ 0点：1 不合格				
教科担当の 自動車整備経験	自動車販売・整備に関わる会社にて自動車整備士としての勤務経験がある。				

専門学校赤門自動車整備大学校 令和7年度 授業計画（シラバス）

学 科 名	一級自動車整備士科				
科 目 名	法規				
履修年次	4年次	履修学期	12月、2月～3月	授業形態	講義
総 時 限	10時限	単位時間数	18時間（1.2単位）		
教科書等 持参品	教科書(法令教材)				
教科担当	・ 上田 忠之 ・ 高橋 翔太				
目 的	「道路運送車両法」「道路運送車両の保安基準」「道路運送車両の保安基準の細目を定める告示」等の関係法令を学習し、自動車の安全性の確保や公害防止、その他環境の保全などについて理解を深める。				
概 要	項 目				時 限
	・ 総則				1
	・ 自動車の登録等				1
	・ 道路運送車両の保安基準				2
	・ 道路運送車両の点検及び整備				2
	・ 道路運送車両の検査等				2
	・ 自動車の整備事業				2
到達目標	自動車に関する様々な法令について知識を深め、各種手続きやコンプライアンス能力を向上し、自動車業界で活躍できる人材となる				
使用教材					
成績評価の方法	※ 定期試験の得点により 100～85点：5 84～65点：4 64～50点：3 合 格 49～30点：2 29～ 0点：1 不 合 格				
教科担当の 自動車整備経験	自動車販売・整備に関わる会社にて自動車整備士としての勤務経験がある。				